

# 「万引防止サミット」開催へ

## 平成28年度通常総会で報告

### 全国万引犯罪防止機構

防犯設備、警備や小売関係団体などで構成する全国万引犯罪防止機構(東京都新宿区、竹花豊理事長、TEL03・33355・2332、以下万防機構)は、6月16日に東京・千代田区の主婦会館ブラザエフで「平成28年度通常総会を開催。今年度の事業活動計画として、来年3月に日本で「万引防止サミット」を開催する活動案などが報告された。

総会に先立ち、万防機構の竹花理事長が挨拶。「この総会で皆さんに議論頂き、ご了承いただきたいのが、平成28年度の事業活動と計画です。当機構はこの3月に『10年の歩みと今後』という冊子を出しました。その中で、私もこれがこれからどうい

う活動をしていくのかに關して、1つの宣言をしています」と語り、冊子に記された「当機構は、今後、万引問題の情報の集積・分析・発信の拠点となる」とも、自ら必要な具体的対策の立案・実施部隊となることを目指していききたい。そして、これを通じて、万引問題の解決に見通しを必ず付ける決意を表明したい」という内容を紹介。その上で、「平成28年度の活動計画案は、これを具体化するもの」と決意を述べた。

そのためには、「万引きという問題の性質上、被害者を除く、万引きに關わる様々な方々の力を結集して進めることが必要」と強調。

新たな事業として、来年3月に日本で「万引防止サミット」の開催を予定。参加者は「小売業者の皆さま、被害を受けている方々は勿論だが、これに加えて各都道府県に設置されている万引防止協議会の方々全員に参加頂き、米国或いはその他の国からも万引き問題に

たい。そして私どもの決意を固める、大きな大会にしたい」と語った。

この他、「この小売店で、どんな被疑者によって、どんな犯罪が、いつ行われたのかということをお互いが早く知り合

い、場合によっては得られた顔認証情報、犯人に關わる情報も含めて、共有できる仕組みを作りたい」と語り、盗難情報の共有化に關する2つの部会として、出版部会及びドラッグストア部会で盗難情報データベース構築委員会を発足。そして、ネット上での盗品流通の実態把握を目的に、ネットへの盗品流入防止委員会を発足。

また、警察へ万引き犯を届出した際に生じる問題解決などを見据え、警察関連と小売業のリレーション強化委員会の発足準備に着手。万防機構のホームページに、万引

きに關する相談窓口を開設したことも報告された。

議事に入り、第1号議案「平成27年度事業報告及び決算案」、第2号議案「平成28年度事業計画及び予算案」、第3号議案「役員異動」、第4号議案「定款の一部変更」の何れも事務局提案通り承認された。

竹花理事長



新役員として、日本小売業協会の高野秀夫専務理事、全国警備興協会の福島克彦専務理事、日本百貨店協会の近内哲也専務理事、日本防犯設備協会の片岡義篤代表理事が就任。日本万引システム協会(JEAS)の初代会長もつとめた山村英彦理事が退任した。定款については、認定NPO法人申請に關連する点が一

部変更された。